

あなたと一緒に研究します

企業と林産試験場が研究を分担してそれぞれの施設で実施します。研究内容は、北海道の産業・経済等に貢献できるものとし、対象は研究に必要な人材・設備等を持つ企業・試験研究期間・市町村・大学・団体等です。

共同研究 (窓口：企画係)

- 申し込み 前年度の8月末日まで
- 費用 有料

林産試験場では、昭和61年度から北海道共同研究規程に基づき共同研究制度を実施しています。平成6年度は6課題について民間企業等と共同して研究開発を行ないました。

本制度においては、試験研究機関および企業がそれぞれ分担して研究を行ないますが、公的研究機関として公平を期するため、共同研究に必要な経費のうち、消耗品費および旅費等の直接経費は企業に負担していただくこととなります。

共同研究の成果は基本的に公表しますが、特許等の工業所有権については、北海道と企業が共同して所有する形になります。さらに共同研究者には5年間の特許等の優先実施権が与えられます。

共同研究制度は企業の研究開発能力の向上にも有効です。北海道の林産業の発展のためにも、多くの企業がこの制度を活用し、技術力のワンランクアップが図られることが望まれます。

報の収集などにより効率化を図りながら確実な技術開発を行ってまいりました。林産試験場とは、従来から木製品の景観資材への活用について情報交換を行っておりましたが、林産試験場側より木材とコンクリートとの新しい複合法の提案を受け、本格的に共同研究として製品開発を行うことになりました。研究テーマは「木材とコンクリートの複合ブロックの開発」ということで、木材部分の加工、試験、コンクリートとの接合法は林産試験場が担当し、コンクリートの配合、マーケティングを当社が担当いたしました。

製品の開発過程では、技術的な難問がかなり生じましたが、木材とコンクリートとのそれぞれの専門を生かし、綿密なミーティングを欠かさないことで、息のあった二人三脚体制の研究を行うことができました。おかげさまで新しい製品が完成

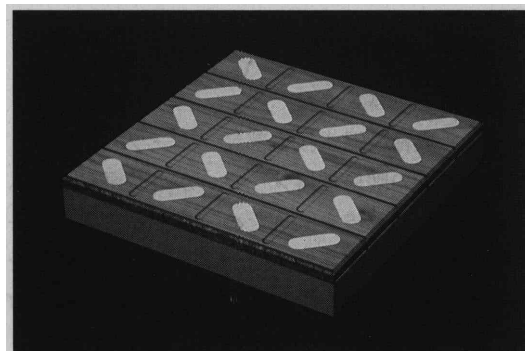
利用者の声

株式会社旭ダンケ

札幌支店 支店長 山下晴久氏

株式会社旭ダンケでは、実績あるコンクリート製品製造をベースにしながら、さらに景観づくりを総合プロデュースする新しい事業展開に取り組んでいます。景観づくりは環境そのものが基本となることから、新技術を取り入れた環境製品の開発、新素材の研究などが必要となります。

当社は、これを異業種との技術交流や、海外情



木材とコンクリートの舗装ブロック

し、本年度より積極的な営業活動を行っております。完成した製品は従来の同種のブロックと比較するとかなり斬新な特長をもっていますので、業界の新開等でもたびたび取り上げられ、特に官公庁からの問い合わせが多く、今後かなりの需要が見込まれています。

木材の分野は異業種の中でも、もっともコンクリート業界から距離感を感じやすい分野でしたが、この共同研究により、かなり自由な発想の製品造りのアイデアが生まれつつあります。そこで来年度も新しい環境資材の開発へ向けて、再び林産試験場と共同研究を行うことになりました。

当社は、マスプロダクティブな無機質的な表情のコンクリート製品を、ただお届けするのではなく、いい表情の製品をいい表情でお届けすることをモットーとしております。今後も、環境との調和を目指し、技術に裏付けされた木材の新しい可能性を積極的に当社のコンクリート製品に反映させていきたいと思っています。

サンモク工業株式会社

代表取締役社長 西田 誠氏

サンモク工業株式会社は、明治35年に旧三井物産(株)小樽支店木材部砂川工場として開設以来、合板、構造用および造作用集成材、複合フローリングなどの建築資材の生産事業に取り組み、さらに平成5年には一級建築士事務所を併設するに至っています。この間に、昭和51年には現在の社名として分離独立し、昭和62年には新たに構造用集成材工場を建設するなど、集成材の構造用途を道内のみならず全国に展開してきました。

国内の構造用集成材の需要が、公共建築物など

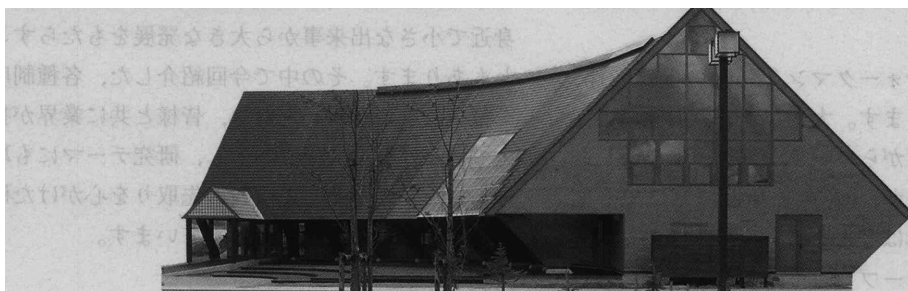
を対象に復活の兆しを見せはじめた昭和62年より2か年にわたり林産試験場との共同研究をスタートさせ、「大規模構造への通直集成材の適用技術開発」と題して、木造の小学校建築の設計をベースに、ドリフトピン接合による剛節接合部の形成に関しての研究開発に取り組みました。

この共同研究の背景には、これまでにない接合工法の獲得による構造用集成材の新規需要の掘り起こしという面だけではなく、工法の実現の過程で構造用集成材の製造・加工の技術力の幅を拡大するという狙いもありました。

当社では、構造用の集成材を建築材料として素材のまま提供するのではなく、個々の取合い部分の接合形式に応じて断面加工ならびに接合金物を取付けるボルト穴などの加工を施した建築部材として建築サイドに供給しており、それらには高度な加工精度が要求されるものです。特にドリフトピン接合の場合には、穴あけ加工の位置精度は構造体としての組上げの可否に関わるのみならず、接合部分の強度特性を決定する重大な要因となります。

林産試験場内に建設された「木と暮らしの情報館」は、ここで得た技術・知見を基礎として、カラマツ通直集成材を使用し剛節接合を採用した建築物であり、当社は構造設計から集成材の製造・加工ならびに現場での構造フレームの地組み・建上げまで、建設の要所となる部分に携わることができました。

今後とも、研究開発ならびに生産活動に対する林産試験場の協力・支援をお願いしたいと考えております。



木と暮らしの情報館